

集約した意見について

質問 1 ●小学校期

- ・基本指針にあるように、本市における今後の学校のあり方を、「小学生は地域で育て、中学生はより多くの同年代の中での育ちを促す」という考え方のもと、
- ・地域で子どもたちの育ちを支えていると考えられますか、
また、地域と学校の連携を進める仕組みづくりが進んでいると考えられますか。
(コミュニティースクール、つろうて子育て協議会、コーディネーター等)
- ・委員として学校、地域で子どもたちの育ちを支える取組についての意見、思うことはありませんか。

良かったと思う点

(1) 子どもを育む体制

- ・ つろうて子育て協議会やコミュニティースクールを通じて、地域と学校が連携している。
- ・ 複数の小学校のつろうて子育て協議会が合同で安全マップの作成や通学見守り隊の活動を行っている。
- ・ コミュニティースクール等によって地域、学校、家庭の関係がより深まり、子どもと地域の距離が縮まった。
- ・ コロナ禍も第 5 類に移行し、人と交流を持つような体験やイベントを開催するなど子どもを育む体制を整えていきたいと思う。

(2) 地域とのつながり

- ・ 学校が地域に存在することで、地域住民とのつながりが強まり、地域が学校、児童を支援していると感じられる。
- ・ 地域のイベントや活動に参加する機会が多く、地域、学校、家庭が連携していると感じる。

(3) 地域住民の距離が近く、安全・安心な環境

- ・ 自分たちがいる地域では、地域住民が見守り等のサポートに協力する体制が整いやすく、通学や学校生活における安全が確保されやすい。保護者として安心感がある。
- ・ 特に低学年時において、児童が地域の近く、家の近くにいることに安心感がある。

(4) 地域住民の協力と小規模校の特色活用

- ・ 小規模校では、地域全体で子どもたちの成長を支える意識が生まれやすく、地域を巻き込んだ活動が容易であると感じられる。
- ・ 地域の人が子どもの名前を覚えてくれているなど地域と関わりやすい環境がある。
- ・ 小規模校で不足が予測される交流活動については、合同学習や ICT やスポーツを通じて交流が図るなどの教育環境の充実とともにバックアップする環境が整えられている。

悪かった思う点

(1) 各地域における活動のばらつき

- ・ 地域としてまだまだ子どもを主体とした活動が足りていない。
- ・ 実施計画の学校再編が進む中で児童生徒の合同学習による交流は進みつつあるが、保護者のつながりができていない。保護者、公民館を含めた地域の関わり合いが必要である。
- ・ 参加を選ぶほど活動があり、コミュニティースクールがなくても活動が盛んである。
- ・ 各地域で子どもを育てる環境を整えているが、地域活動やコミュニティースクールの導入など、地域で子どもを育む機運の高まりにはばらつきが見られる。

(2) 小規模校での交流機会の確保

- ・ 小規模校では、児童生徒が少ないため、限られた人としか接することができず、地域で交流する機会が少ない。
- ・ 関わる人が限られるので、様々な工夫が必要となる。
- ・ 全ての小規模校が交流活動等の支援対象とされていない。複式学級がある学校全てを支援の対象とするなど児童の交流・体験機会を創出されたい。

(3) コーディネーターの配置と役割

- ・ コミュニティースクールにおけるコーディネーターが子どもと地域をつなぐ重要な役割を担っているが、配置が足りない。
- ・ 子どもの意見を汲み上げるにはコーディネーターが有効である。

(4) 通学手段と社会性の育成

- ・ スクールタクシー等の利用によって安心な面がある一方で体力低下の懸念がある。
- ・ スクールタクシー等の乗降場所を自宅付近ではなく、公共施設にすることで地域を身近に感じてほしい。
- ・ スクールタクシーではなく、公共交通機関を利用し、社会性を育てて欲しかった。

(5) 地域の役割の変化と負担感

- ・ かつては、地域が当たり前の子育てを支援していたが、住民の高齢化もあり地域から負担に感じる声があった。
- ・ つろうて子育て協議会が子どもの育ちの支えを担う際に地域で子どもを育む仕組みを考える機会となった。